

## ワークショップ 共振共鳴力の使い方

### —心身一如のセラピー 気功、占い、経絡治療を中心に—

心理療法を行う皆さんは、クライアントに共感し過ぎて、次のような体験をされたことはないだろうか。

- クライエントの身体的なコリや痛みを「受け」、セラピストも同じような処にコリや痛みを感じた。
- うつのクライアントの影響を「受け」て、セラピストも抑うつ気分になった。または、そう状態のクライアントの影響を受け、セラピストもそうになった。

これらは、俗に言う「受ける」体験だが、临床上の必要から、私はこれらを共振共鳴現象と定義して、長年観察し研究してきた。

それは、クライアントの心身状態に、どうも自分が影響されているようだ気づいたからだった。朝、自分で自分の体調を診たときは異常がなかったのに、肝経異常のクライアントとのセッションが終わったあとで調べてみると、自分も肝経異常になっていた、という体験がそのはじまりだった。

鍼灸師である私は、人間の心身状態を経絡の変化で診断するのだが、それが突然変わるという事は、非常に不可思議な出来事だった。しかし、実際にそんなことがよく起っていたし、またそのほうが、クライアントの回復が早いということも驚きだった。

鍼灸師になる以前から、野口晴哉（野口整体の創始者）流の心理療法と組合わせた整体操法を実践していた私のセッションは、身体治療と心理療法をシームレスに行き来する形なのだが、その観点から共振共鳴現象を考え、それを治療に生かすことを研究していったところ、临床上のヒントがいくつも見えてきた。

このワークショップでは、下記のポイントを取り上げ、参加者とともに体験しながら考えてゆきたい。

1 過度に受ける状態を避けるために、セラピストの護身の重要性和その方法

2 気功、占いセラピーでの、共振共鳴現象を生かした心理アプローチ。

「クライアントが私（セラピスト）に共振する」と「私がクライアントに共振する」の使い方。